

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 各教育活動に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・学校行事やインターンシップ、資格取得などの本校全日制の特色ある教育活動について、各部で見直しや検討を行い、内容の充実・改善を進める。	A	A	A	学校評価アンケートの自由記述を見ると、教員は「授業評価アンケートの結果から生徒から満足度を自己評価している」。生徒は「工業科目の授業が充実している」。保護者は「家庭で学校での話題を話してくれる」といった記述がみられた。	・学校評価アンケート結果から、学校に対する生徒や保護者の満足度が高いことがわかる。 ・実習や課題研究を通じて他者と協力しながらものづくりの楽しさを学ぶ取組が充実していると評価できる。 ・インターンシップの充実、生徒本人の成長に大きく関わるものと考えている。従って、困難性は高いが、長期のインターンシップが可能になることを強く希望します。 ・課題研究発表会を見る中で、生徒自身がやりたいう事、してみたい事を自ら考え試行錯誤して作製することは、まさにものづくりの楽しさや生徒間の人間関係・協調性が養われる。それに対する教員の指導等、学校の楽しさをつくる取組などは、まさに社会的に必要なものづくりの基本は十分であり、資格等も取得でき、生徒の満足度80%以上の実績はすばらしい。ものづくり原点そのもの。 ・方策、次年度の課題等を踏まえていただいて、先生方のお知恵や工夫が詰まっています、子どもがこの学校にお世話になった事を、とても嬉しく思いました。
		(2) 生徒が在学中に1回以上インターンシップに参加している。	・インターンシップ（短期・長期）を実施する。	A	A	A	全校生徒が在学中2年次に短期インターンシップへ参加しているため、今後はインターンシップの効果や成果など、もう一歩踏み込んだ項目・数値の設定にすることが考えられる。	
		(3) 工業の特長を生かしたものづくりに積極的に取り組み、実習内容に満足している生徒が70%以上である。	・実習では、ものづくりが楽しくなる工夫を行い、生徒が積極的に参加できるようにする。 ・各研究部等では、専門性を深めるため積極的な課外活動に取り組む。	-	A	A	実習は、各学科の専門における、基礎・基本の知識と技術・技能の定着を目指し、3年間で体系的に学べるカリキュラムにしている。多くの生徒が、ものづくりを楽しみ積極的に取り組む他者と協力して取り組んでいる。身に付けた技術・技能を自身の考えの裏付けとして、課題研究や研究部の活動につなげていきたい。	
		(4) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・行事を充実させ、職員と生徒で運営できるようにする。 ・OBや社会人による講演を行う。 ・前工生であるという帰属意識とプライドを醸成する。	-	A	A	学校評価アンケートの自由記述を見ると、生徒は「雰囲気がよく学校生活が楽しい」といった記述がみられた。	
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(5) 生徒の資格指導に対する満足度は、80%以上である。	・資格・検定・講習会の紹介により受験を促す。 ・補習指導を各科・各係で実施する。 ・家庭学習や放課後の時間を有効活用する指導を行う。	A	A	A	学校評価アンケートの自由記述をみると、少数ではあるが生徒は「科によって取得できる資格が少ない」保護者は「資格取得が科によってまちまち」という意見があるので、全科でうまく協力して専門以外の資格に挑戦できる態勢を整えなければならない。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(6) 授業に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・授業評価アンケートを実施し、生徒、保護者のニーズを把握することにより、授業の充実を図る。	A	A	A	学校評価アンケートの自由記述を見ると、教員は「生徒の学力差を埋める対応に苦慮している」。生徒は「周囲と学力差ができないよう努力している」。保護者は「子どもが意欲的に学習する姿を見ている」といった記述がみられた。	・成績不審者に対して補習授業を行うなど、履修科目を修得させる努力を行っている。 ・保護者からの「子どもが意欲的に学習している姿を見ている」といった意見は、数少ないことと思うが、大絶賛に値する記述であり、今後少しでも増加傾向に向くことを期待したい。 ・前回、授業参観的に教室を回り授業内容を見させてもらったことがあり、その時の感想を思い出した。まさに生徒・先生との関係が友だち同士で授業を受けているかのようであった。とても良い関係での授業であり、アットホームな雰囲気を感じた。また、授業改善コーディネーターを採用していることも驚いた。
		4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 欠点保持者数は各学期で全校の10%以下である。	・成績不振者に対し補習授業を行う。 ・履修科目を修得させる努力をさせる。 ・基礎、基本の知識が定着する授業を展開する。	A	A	A	欠点保持者数は全校の10%以下になっている。次年度についても成績不振者に対し補習授業を行うなど、履修科目を修得させる努力を継続して行い、基礎、基本の知識を定着させていく。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(8) 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	・情報交換会を実施する。 ・各科と担任の情報交換を密にする。 ・定例学年会で情報交換する。 ・職員会議、成績会議で情報交換する。 ・各会議での情報を共有できるようにする。	A	A	A	会議などで生徒に関する情報交換は常に行われているので、今後はどのくらい情報共有ができていくかといった、もう一歩踏み込んだ項目・数値の設定にすることが考えられる。	・アンケートやHR活動を通じて、生徒が悩みや不安を出しやすい環境づくりに努めている。また、いじめ防止や情報モラル、基本的な生活習慣を身につけさせる指導方針を評価できる。
		6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	(9) 学校はいじめの未然防止や早期発見に向けた取組を積極的に各学期1回以上は行っている。 (10) 学校は、「学校いじめ防止基本方針」について、1回以上生徒に説明している。 (11) 学校は、生徒がSNS（ツイッターやラインなど）やインターネットの危険性や正しい利用方法などについて、1回以上は学ぶ機会をつくっている。	・学校生活アンケートや面談週間などで、悩みや不安を学校職員に伝える機会を設け、未然防止や早期発見に結びつける。 ・生徒が中心となって、あいさつ運動を展開する。 ・年度当初に、学年集会や全校集会で「学校いじめ防止基本方針」を説明し、いじめは絶対にあってはならないことを伝えていく。 ・「ケータイ安全教室」「サイバー犯罪防止教室」「いじめ防止フォーラム発表会」「こころの教育授業」を実施し、SNSによるトラブルやSNSに頼らない人間関係の構築に向け指導を行う。	A	A	A	生徒が悩みや不安を出しやすい環境作り（あいさつ運動、生徒アンケート、保護者アンケート、HR活動など）を更に工夫し、生徒のエイジェンシーを活かした活動を増やす。 クラスごとはいじめ防止目標だけでなく、学校全体としてのいじめ防止目標の設定や生徒が自ら考えたいじめ防止活動の工夫を行うなど、生徒主体となりたいじめ防止活動を増やしていく。 情報モラルを生徒が自ら学び、身につけるためには様々な出来事を例に挙げながら、生徒が自分事として受け止め、生徒の安心・安全を守る取組をすることが重要である。そのような活動が出来るような取組を今後行っていく。
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(12) 家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による欠席・遅刻をなくし、1日平均遅刻者数は前年度の98%以下である。 (13) 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査の必要のある生徒の受診率は80%以上である。	・進路指導も見据えた指導を行う。 ・遅刻カード（イエローカード）の記入を徹底する。 ・欠席遅刻が多くなりそうな生徒には、家庭へ連絡し早期改善に努める。 ・基本的な生活習慣を確立させる。 ・検診結果により治療が必要な生徒に治療勧告を行う。 ・担任、養護教諭等で指導機会を増やす。 ・保健だよりを発行し、保健意識の啓発を図る。	B	B	B	基本的な生活習慣を身につけることは、生徒が充実した学校生活を送るには欠かせないものであることに気づかせる。また、家庭との連携を行い、家庭の協力を得るなど、生徒の生活改善を行う指導の充実を図る。	
	8 部活動に積極的に取り組んでいますか。	(14) 部活動に加入している生徒は60%以上である。	・新入生歓迎会（部活動ガイダンス）により、新入生への部活動加入を促す。 ・部活動の諸調整を行い活動の活性化を図る。	A	A	A	部活動を行うことが、自己肯定感や自己有用感を身につけ、人とのコミュニケーション力を高めることに繋がると伝える。その結果、部活動の加入率を上げる。また、部活動で頑張っている生徒を応援する雰囲気や学校全体で作る。	・生徒一人一人に寄り添う姿勢で向き合い、進路説明会の開催や進路だよりの作成など、生徒が主体的に将来進路を考え選択できる機会を多く提供している。 ・生徒の進路選択は、もっとも気になることであり、高校生時代に十分な行動を行うことにより、社会に対する認識を高めていってほしい。そのための方策として、馴染むかや不安があるが、部活動の一環として、例えば進路研究部等を立ち上げた方がいいかと思う。あるいは、課題研究のテーマとしてよいのではなかろうか。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(15) 進路関係の行事やガイダンスを年5回以上実施する。	・先輩と語る会や3年生と語る会を実施する。 ・進路希望調査を実施する。（年2回） ・進路講話や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・校内公務員模試を実施する。 ・各科との協力のもと、企業見学やインターンシップを実施する。	A	A	A	進行講話等で、生徒全員と向き合う一方で、生徒が自分らしい生き方をできるように一人ひとりに寄り添えるよう心がけていく。また、生徒の多様化（入学の動機、さまざまな希望進路、小中学校での学習やキャリア教育等）にもなるべく対応できるよう各種行事の見直しや精選をしていきたい。	・生徒同士が語る会の実施は、生徒においてもとてもいい取り組みだと思う。就職問題やインターンシップの選択などを、生徒自身の具体的な進路経験者から直接聞くため、教員からの指導を受けたりすることで、社会に出る準備がスムーズに移行する。A評価をしたい。また、保護者からも80%以上の評価は素晴らしいと思う。
		(16) 学校からの進路に関する情報について満足している保護者が80%以上である。	・進路のしおりを作成し配布する。 ・保護者対象の進路説明会を実施する。 ・Webページを活用し、進路行事や進路状況を載せる。 ・2者及び3者面談を実施し、進路希望の確認を行う。 ・進路情報を提供し、学級担任と協力して生徒を指導する。	A	A	A	今年度は、保護者や地域社会に求められる要望などを取り入れ、進路説明会や進路だよりを作成した。今後も学級担任と連携を深め、生徒や保護者等に適切な進路情報が提供できるよう進路活動を展開していく。	
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17) 進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が70%以上である。	・進路だよりを定期的に発行する。 ・進路のしおりを作成し、全生徒に配布する。 ・進路相談室の充実を図る。 ・図書館に進路コーナーを設置し、生徒への情報提供を行う。	A	A	A	本校の進路指導目標である、将来を考えた学習活動を行い、主体的に進路を選択し、自己実現を図っていくことができるような生徒の育成を目指したい。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(18) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。	・オープンスクールを行う。 ・学校公開を実施する。	-	-	A	学校説明会などの学校公開自体は毎年行っているため、今後は参加者からの意見や評価も入られればと考える。	・PTA総会や授業参観等に参加する保護者の割合が高く、またWEBサイト等を通じた学校情報の発信もよくなされている。
		(19) 保護者全員を対象とした学級担任による面談を年1回以上実施している。	・全校一斉の3者面談週間を設ける。	-	-	A	全校一斉の3者面談を毎年実施しているため、今後は面談に対する生徒や保護者からの評価も入られればと考える。	・この項目は、よくやっていたらと感じている。あえて言わせていただければ、保護者が参加しやすい土日開催が可能になれば、なおのこと効果は期待できると考える。
		(20) PTA総会、授業参観、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が90%以上である。	・PTA総会、授業参観、学級懇談会や学年保護者会を実施する。 ・保護者への連絡を周知徹底するため、案内文書に加えメールでの案内も送る。 ・家庭との連絡を密にする。（担任） ・課題研究発表会等では、保護者に案内を送る。	A	A	A	参加している。やや参加している。の回答が74%であった。参加通知等を紙ベースからmail等で直接保護者へ周知し、フォームなどで出欠の回答を収集することで、周知が早くなったり、伝え漏れる事が少なくなる。	・保護者会議50%以上、家庭も生徒も学校に関心をもち、参加者も半分以上の実績。また、連絡手段も紙ベースからメール・ITを活用することで、早く正確に伝え、参加する保護者にとっても都合がつけやすくなり、毎年増える要素を今後も続けてもらいたいと思う。
		(21) 学校からの情報発信に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・前工だよりを年3回発行し、生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。 ・保護者への連絡を密にして、必要事項の周知を図り、本校の教育活動を伝える。	-	A	A	学校評価アンケートの自由記述を見ると、保護者は「前工Webページが適宜更新されてるのがよく分かる」、「学校行事を見学・参加したい」といった記述がみられた。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	(22) 学習用端末やICT機器を活用した指導を教員が行い、ICT機器を積極的に学習活動に利用している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・授業でのICT機器の効果的な活用を学校全体で推進する。また、学習用端末を活用した朝会連絡やリモート会議を積極的に取り入れる。	A	B	B	自分の子どもが学習用端末を何に利用しているのか分からない、利用する姿を見かけたことがないという、保護者からの評価がみられた（アンケートで測定した満足度79.1%）。	・生徒のICT活用学習に関しては、当校だけでなく県内すべての学校においても課題であると思われる。（全県で検討すべき課題であるが、単に学習端末の利用率だけでなく、ICT活用学習の効果測定・評価をしっかりとやるべきだと思う。） ・今ひとつ活発な活用がなされていないようだが、今後の指導に期待したい。
		13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(23) ICTを活用することで、分掌業務などの改善に努めている教員が80%以上である。	・各種調査や連絡などでクラスルームやフォームを活用し、資料や情報のデータをデータベース化する。	A	-	A	ICT活用が教員に定着しているため、今後は各教員の活用事例を科内・校内で情報共有できればと考える。